

R5年度 5年生 生活・総合的な学習の時間

テーマ(単元名)

**考えよう！フードロスゼロに向けてできること
～九会小学校の残食をゼロにしよう～**



栄養教諭・
給食センターの
調理員さんの願い

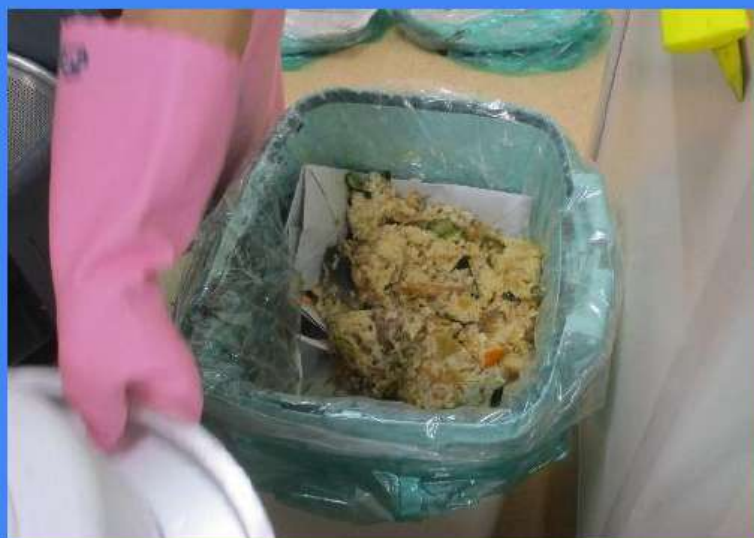
自分

シーズのサポーター
栄養教諭
給食センターの
調理員さん
ICT支援員の古井さん

働きかける対象
九会小学校の
全校生

共感

栄養教諭の藤森先生に、加西市全体と九会小学校の残食の現状について、写真やデータ等をもとに詳しく教えていただいた。調理員さんの「一生懸命作っているのに、給食を残さず食べてほしい。」という願いに子どもたちは胸を打たれ、九会小学校の残食を減らしたいという思いをもつことができた。



藤森先生の話聞いて(児童のふり返り)

調理員さんががんばって作っているのに、毎日たくさん残って、悲しい思いをしていることがわかりました。1人ずつ2、3口分食べるだけで残食が減ると思いました。これからはクラスで声をかけたり、たくさんおかわりをしたりして、給食が残らないようにしていきます。

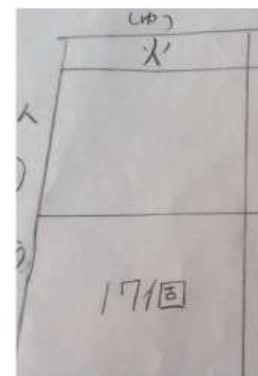
問題 定義

①九会小学校の残食に関する問題点を明確にするため、グループに分かれて残食調べを実施した。

②残食調べの結果をグループ毎に全体に向けて発表し、明らかになった問題点を共有した。

調べたこと残食の実際の重さ・数
火曜日 担当
牛乳の数17個

一学年
に2個ぐらい
余ってる



残食調べの結果、明らかになった問題点

- 苦手な物がある。 ○しゃべっていておそい。
- 増やす人が少ない。 ○減らす人が多い。
- 入れる量が少ない。(一度もお皿にのらずに残る。)
- 完食しようとしていない。 ○九会小全体の完食0。
- 同じ子がよく残す。 ○ご飯とお汁、牛乳がよく残る。

発想

残食調べをして明らかになった問題点を解決するために、グループに分かれて、残食をゼロにするための取り組みを考えた。「今すぐできるか、時間がかかるか。」さらに、「物を作るのか、イベントをするのか。」という視点で考えさせることで、取り組み方法を具体的にイメージできるようにした。



今すぐできそう		時間がかかる	
物をつくる	イベントをする	物をつくる	イベントをする
<ul style="list-style-type: none"> スターを作る 残食ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> 朝会や放送でよびかけ 教室でよびかけ 	<ul style="list-style-type: none"> 残食ゼロ 残食ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> 朝会や放送でよびかけ 教室でよびかけ
<ul style="list-style-type: none"> 残食ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> 朝会や放送でよびかけ 教室でよびかけ 	<ul style="list-style-type: none"> 残食ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> 朝会や放送でよびかけ 教室でよびかけ

今すぐできそう		時間がかかる	
物をつくる	イベントをする	物をつくる	イベントをする
<ul style="list-style-type: none"> 結果を伝える スター(データを入れる) 新聞 絵本 副理員の思い ロサイズチャレンジ 絵 年におて 	<ul style="list-style-type: none"> 朝会や放送でよびかけ (作っている人の思い) 残食の行き先 教室でよびかけ 	<ul style="list-style-type: none"> 「ランキング」 家庭からあげる(合計X-1) グループ回 クラブで説明 おどろく 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手な食べ物を1週間かん. スクラッチ ゼスケット 給食の大切さをゲーム的に知らせ プログラミング OXゲーム みんなの偉い事物語

プロトタイプ

①「発想」で出された取り組みの中で、どの案が実施可能かを全体で考えた。

②実施する取り組みが決まったら、グループに分かれて計画を立て、作成に取り掛かった。

③完成した取り組みをお互いで試し、アドバイスし合うことで、さらに良い方法はないかグループで考え、追加・修正していった。



実施が決まった取り組み

- すごろく
- 一口サイズチャレンジの呼びかけ
- スクラッチを使った呼びかけ
- 残食ゼロでシールを貼り、完成したら国語の登場人物になる掲示
- QRコードがついたポスターなど

テスト

①「残食をゼロにしてほしい」という思いをもとに、完成した取り組みを対象とする学年・学級に紹介し、実施してもらった。

②完成した取り組みを藤森先生にプレゼンし、感想をいただいた。



「一口サイズチャレンジ」の取組で、5年生が1・3年生に一口ずつ、おかずやご飯を配っています。

5年生が配膳することで、1・3年生に喜んでもらえて良かったです！



児童の 振り返り

教員の振り返り

○成果

栄養教諭や調理員さんの願いを知り、全校生に残食ゼロを啓発したことで、自分たちの残食が減り、さらに感謝の気持ちをもって給食を食べるようになった。食品ロスの学習をしたことで、児童の給食に対する意識が変容したことが、本単元の最大の成果だと考える。

▲課題

本単元の内容は、啓発する活動が行いやすいため、どうしてもポイントをためる、シールを貼る、ポスターを作るといった内容が多くなった。もう少し、プログラミングの内容を入れてバラエティ豊かな取組を行えるようにできればよかった。そのためにも、教師がスクラッチやキューブ、③プリンタなどの知識を獲得し、児童が取組方法を考える際、上記の内容をアドバイスできるようにしたい。

児童の振り返り1

ぼくは、この食品ロスの勉強を通して、日本の食品ロスはまだまだ多いことや、給食を作っている人がどれだけ頑張っているか、残食を捨てるのがどれだけつらいことか知りました。ぼくは、給食センターの動画を見て、給食を増やさなくても残さず食べようと思いました。この学習を家の中でも生かしたいです。

児童の振り返り2

学んだことは、食品ロスをするともったいないし、作った人が悲しんでしまうということです。自分が頑張ったことはクロームブックで調べたり、絵を描いたりしたこと。他のクラスにお知らせしたり、配膳したりしたことを頑張りました。これからの生活に生かしたいことは、ご飯を残さずに賞味期限が早めのものから食べることです。